

「介護ジャーナル 2001 年 12 月号」に

完オゾ協議会の記事が掲載されました。

完全オゾン処理システム殺菌効力実証検証により、
感染対策・環境問題に貢献との評価！！

介護施設の感染問題対策は大丈夫？！

老人ホームで毎年レジオネラ属菌の集団感染が問題になっている。1年前に3名の死者と感染患者を出した茨城県石岡市の総合福祉センターの入浴施設においても、「水をろ過して再利用する循環式の入浴設備は安全」とされていたのだが、結果的に館長や市長の責任が問われるまでに至った。

今後二度とこのような感染問題を起こさないためにと、『石岡市レジオネラ菌完全被害者の会』が、菌を完全に除去するシステムを推進する『完全オゾン処理型循環ろ過機安全推進協議会』（寺尾禮二会長）に、事故防止と安全対策についての協力を要請した。

通常、塩素で管理することを厚生労働省で指導しているが、塩素を使わない『完全オゾン処理型システム』に24時間風呂と比べどのくらいの殺菌効力があるのか、高知県の特養へ検証するよう依頼した。

その結果、完全オゾン処理型システムを用いた場合、処理前には2400個もあった菌が運転開始15分後には20個になり、1時間後には0になったことが実証された。



完全オゾン処理型システムを取り入れたヒノキの浴槽

この完全オゾン処理型システムは、すでに特養などの施設で使われ、「飲める水にまでろ過される」と環境問題に貢献できる点でも評価されている。また、補助金の対象にもなっており、年間の水の使用量が30分の1、燃費が4分の1に軽減されるといった低コストもメリットのひとつだ。

今後、通所型も多くなる施設で感染対策は欠かせないし、環境問題についても避けては通れない時代になってきている。需要は十分に見込めそうだ。

※完全オゾン処理型循環ろ過機安全推進協議会 TEL.03-3221-1808

URL:<http://www.ikochi.or.jp/hp/terao/kanozo/>